

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

(2歳児)

施設名	町田市立金森保育園
施設所在地	東京都町田市金森東1-12-16
法人名	町田市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

保育園の広い園庭や近隣の公園での自然豊かな環境を活かして、子どもたちの興味、関心のあ
る虫、植物、畑など、自然と関わる中でじっくり探究活動を行える時間を大切にしてい

2. 活動スケジュール

- ・ 7～8月・水・色水・泡・ボディペイント・泥などの遊びを通して、いろいろな感触にじっ
くり触れて全身で遊ぶ。
- ・ 9～11月・散歩に出かけ、芝生・落ち葉・松ぼっくり・ドングリ等の自然に直接触れ
る。見つけた自然物を持ち帰り、おままごとや制作等に使って遊ぶ。
- ・ 12～2月・落ち葉・ドングリ・霜柱などの発見を楽しみ、ごっこ遊びに取り入れる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 絵の具やクレヨン、ジョウロ・カップ・ペットボトル、バケツ、ボディソープなどを用意。
汚れを気にする子も安心して活動できるように、すぐに洗ったり拭いたりできるようにした。
- ・ 場所によって落ちている自然物が違うことに気づけるように、散歩先は複数の場所を選
定。発見した自然をいつでも持ち帰れるように袋を用意した。
- ・ 制作は、ボンド、シール、テープ、千日紅のドライフラワー、どんぐりを用意した。
- ・ 散歩先にカメラを持っていき、様子を配信し、発見したものを保護者と共有できるように
した。散歩の道中は、畑でイモ・ネギ・みかん・橙・水たまり・霜柱・カラス・トンボ・
蝶・猫などの身近なものの名称や色・音などを子どもに伝えたり、立ち止まって観察したり
し、興味に寄り添えるような関わりをしていった。
- ・ 園庭で自然物を使って遊べるよう、ふるい、ざる、シャベル、バケツ等を準備。子どもたち
が自主的に発展させて遊んでいるところに、保育士も加わるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ どんぐり遊び、ボディペインティングなどの活動により、自然物の様々な感触の違いを探究した。
- ・ 散歩などで子どもたちの発見を受け止めたり、子ども同士で共有したりしながら自然への探究心が深まるようにした。また、散歩などで見つけた、自然物（どんぐり・落ち葉）を使って、落ち葉シャワーや、マラカスやクリスマスリーなどの制作を楽しんだ。
- ・ 栽培物を使ってプチクッキングを行う、パーティーごっこを通しておにぎりを握るなどの感触を味わうことが出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 夏の遊びを繰り返す中でだんだんと汚れを気にせず遊ぶ姿が増えてきた。「もっとやりたい」「〇〇色がいい」などリクエストをしてくれることも多くなり、要求にもその場で応えるようにしていった。
- ・ 散歩ではどんぐりの落ちている道を歩くと、「ガリガリするね!」とどんぐりが割れる音を表現していた。
- ・ 霜柱を発見した時には、スコップを片手に「こっちだよ!」と友だちに呼びかけて観察。掘り起こしてバケツに入れたり、直接触れて「つめたい」「（溶けて）なくなった」など感触や感覚を味わっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 色々な素材に触れることで、「もっと!」「なんだろう?」「たのしい」などのワクワクする体験を積み重ねることが出来た。また、保育士も一緒に楽しむことで子どもたちの探究心が向上し遊びがダイナミックに発展していった。
- ・ 季節を感じられる活動や子どもへの声掛けを行うことで、子どもの気づきや遊びに応じて計画になかった遊びを発展させることが出来、より探究心を深めることが出来た。
- ・ たくさん自分の手で触ったり握ったりする経験から、ごっこ遊びへの発展だけでなく実際におにぎり作りなどのプチクッキングで食育活動へつなげていくなどの活動ができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

(3歳児)

施設名	町田市立金森保育園
施設所在地	東京都町田市金森東1-12-16
法人名	町田市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

保育園の広い園庭や近隣の公園での自然豊かな環境を活かして、子どもたちの興味、関心のあ
る虫、植物、畑など、自然と関わる中でじっくり探究活動を行える時間を大切にしていく。

2. 活動スケジュール

- ・ 9～11月… 散歩ビンゴをもって散歩に出かけ、木や雲の形、葉っぱの色など自然を観察する楽しさに気づけるようにしていく。
- ・ 12月… 散歩で見つけたどんぐりや松ぼっくりを使って楽器や飾りを作り、自然物を使った制作に興味を持てるようにする。
- ・ 1、2月… 石でお雛様を作り、石を使った制作に興味を持つ。石や枝、どんぐりや毛糸などを使って絵をかいたり自由に組み合わせたりして、自然物を使った制作を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ お散歩ビンゴを子どもたちと相談しながら都度作成した。
- ・ 保育園にある図鑑や、子どもの興味に合わせた虫や植物の図鑑を、図書館で借りて見られるように設置した。
- ・ 制作用のボスカ、ボンド、毛糸、テープ用のハンドカッターを準備、設置した。
- ・ 発見したものを描いたり、葉っぱなどを貼れるようスケッチブック・色鉛筆を準備した。
- ・ 園庭で自然物を使って遊べるよう、すり鉢、ざる、シャベル等を準備。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・散歩ビンゴを作る際は子どもたちにどんなものを見つけたいか、見つけたら楽しいかを問いかけながら一緒に色を塗るなどして作成をした。
- ・散歩で子どもたちの発見を受け止めたり、他児にも共有したりしながら自然への探求心が深まるようにした。
- ・散歩先や公園でもつけた石や枝を持ち帰り、自由に制作を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・散歩ビンゴをしていると雲にもいろいろな形があることに気が付き、「魚みたい!」「あれは顔みたいだよ」と例えることを楽しんでいた。また観察するうちに雲が動いていることにも気が付き、「おばけが押してるのかな」「風の力なんだよ」と考える姿が見られた。
- ・桜の枝が落ちているのを見つけ「育ててみたい」と発信があった。園で水に差し、2ヵ月ほどたったあと花が咲き、観察して喜ぶ姿があった。
- ・自然物の自由制作では石を顔に見立てて目や口を描いたり、枝に毛糸を巻きつけ釣り竿にして、魚釣りごっこを楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めは散歩ビンゴを作成して、ビンゴにあるものを子どもたちと見つけていたが、次第に、ビンゴにないものや、ビンゴを持参していない時でも、子どもたち自身が気づいたことや考えたことを知らせてくれるようになった。自由に遊ぶ楽しさも大切だが、保育士がねらいを持ち、子どもたちに問いかけをしていく大切さを改めて感じた。また、子どものアイディアを受け、何ができるかを担任間で話すときはこちらもわくわくする気持ちになれた。保育士自身も楽しむことで、子どもたちもより発信をしたくなったり、試したりしたくなるのだと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

(4歳児)

施設名	町田市立金森保育園
施設所在地	東京都町田市金森東1-12-16
法人名	町田市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

保育園の広い園庭や近隣の公園での自然豊かな環境を活かして、子どもたちの興味、関心のある虫、植物、畑など、自然と関わる中でじっくり探究活動を行える時間を大切にしていく。

2. 活動スケジュール

- ・7月…色水や泡、ボディペインティングや泥など、様々な素材に触れ、感触の違いを楽しむ。
- ・8月…カブトムシやクワガタなど、実際に生き物を育て、命の大切さを知ったり、興味関心を育む。散歩先や園庭で様々な虫を見つけ、図鑑を使って調べることを楽しむ。
- ・10、11月…散歩先でどんぐりやまつぼっくり、花を集め、押し花にしたり、クリスマスツリーを作ったりと、自然物を使って制作をすることを楽しむ。
- ・1、2月…散歩先で見つけた霜柱に興味を持ち、冷たさや感触を楽しんだり、氷のでき方について実験を行ったりする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵の具やペットボトル、カップや石鹸などを用意した。泥遊びでは、子どもたちが泥の感触の違いに気付く事ができるよう、砂に加える水の量を調節するようにした。
 - ・虫について興味を持つことができるよう、虫かごや虫ゼリーを用意したり、子どもたちが手に取りやすい位置に虫の図鑑を置くようにした。また、虫取りを楽しむ事ができるよう、持ち運び型の虫かごや虫取り網を用意した。
 - ・制作に使う絵の具、キラキラシール、ボンドなどを用意した。
 - ・どんぐりや松ぼっくり、落ち葉など、発見した自然を持ち帰れるように袋を用意した。
- 散歩先にカメラを持っていき、様子を配信し、発見したものを保護者と共有できるようにした。
- ・氷の面白さを感じることができるよう、園庭で氷を探す時間を作ったり、実験を楽しむ事ができるよう、銀カップやバケツを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ボディペインティング・ジュース屋さんごっこ・どろんこ遊び

→子どもたちと一緒に楽しみながら、感触の違いに興味を持てるような声掛けを行ったり、子ども達の発見を受け止めるようにした。

- ・カブトムシやクワガタの飼育、昆虫集め

→餌やりや環境・命の大切さについて話す機会を作ったり、子ども達たちのつぶやきを大切にしながら、一緒に図鑑で調べるようにした。

- ・どんぐりやまつぼっくりなどの自然物集め

→どんぐりの大きさや葉っぱの色の違いを、みんなで共有できる時間を作るようにした。

- ・自然物を使った制作

→クリスマスツリーを作った際には、まつぼっくりに絵の具を塗ったり、キラキラのシールを上からかけたりと、自分なりに飾りつけを楽しむ事ができるようにした。

- ・氷の実験

→子どもたちの霜柱からの興味を大切にしながら、興味が深まるよう、どのような場所で氷ができるのかを問いかけたり、子どもたちが感じた氷の面白さに共感するようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・ボディペインティングでは、色の混ざり方や手形の形を見て、「お化けみたい!」と言うつぶやきから、「これ（できた作品を使って）お化け屋敷したい!」と活動が広がる姿が見られた。泥遊びでは、水の量の違いから、「ここだけ泡ができてる」と不思議そうにする姿があった。

・昆虫を育てる中で、「優しく触るんだよ」と子どもたち同士で声を掛け合ったり、「少し色が違うね」と図鑑を見て話し合ったりしていた。

・どんぐりや松ぼっくりを集める中で、大きさや形の違いに気付いたり、制作では好きな松ぼっくりをじっくり選んで取り組む姿があった。

・霜柱を見つけたことをきっかけに氷のできる場所について興味を持ち、様々な場所に水を入れたバケツを置き、次の日楽しみにしながら園庭で出たり、「ここはできてるのに、こっちは水のままだよ」と変化に気付く姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・色の配色を見てお化けみたいと言ったり、泡が出来ていることを不思議に感じたりと、子どもの持つ視点は改めて面白いと感じた。また、保育士が思っていたねらいとは別の方向に興味を持つこともあり、子ども達のつぶやきを大切にしながら活動を進めていく大切さを感じた。
- ・昆虫の飼育や観察では、図鑑や虫取り網を用意しておくことで、子どもたちが意欲的に調べる姿があったため、保育の環境設定は子どもたちの興味関心を広げる上で重要だと考えた。
- ・子どもの「なぜ?」「どうして?」に寄り添いながら、保育士が問いかけをしていき、子ども達と一緒に考えていくことで子どもたちがより「楽しそう」「やってみたい」と思うことができるのだと感じた。